

畜大だより

OBIHIRO UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND VETERINARY MEDICINE

2024. 4. 1



(撮影：博士前期課程 2年 鍋島 広海)

目次

新入生諸君へ 課程・別科紹介

学 長	長 澤 秀 行	1
共同獣医学課程	教 授 佐々木 基 樹	2
畜産科学課程	教 授 耕 野 拓 一	3
別 科	准教授 秋 本 正 博	4

在 来 生 所 感

共同獣医学課程	2 年 久保田 龍 騎	5
畜産科学課程	2 年 北 野 志 歩	5
畜産科学課程	2 年 平 松 薫 怜	6
別 科	2 年 高 井 大 和	6

学生支援課から

学位記並びに修了証授与式の開催	7
飲酒に関する注意	8
交通事故防止について	8
SNSの利用にあたって	9
消費者トラブルに巻き込まれないために	9



国立大学法人北海道国立大学機構

帯広畜産大学



「入学おめでとう」

学 長
長 澤 秀 行

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんは、一人ひとり違った能力を持って生まれ、異なる環境で育ち、皆さんの多くは生まれ育った土地を離れ、今ここに、進む道を同じくした仲間たちと共にいます。これから始まる大学生活には新たな発見と、人生でかけがえのない経験が待っています。本学が皆さんにとって、有意義な人間形成の場となることを期待します。

十勝平野に位置する本学の西には日高山脈、北には大雪山系があり、それらの裾野は十勝川に沿って太平洋沿岸まで広がっています。地平線を望むことのできる広大な十勝平野と太平洋沿岸の豊かな漁場を有するこの雄大な自然環境は、北海道の中でも特に素晴らしいものです。

今年の夏ごろに、新たな国立公園として「日高山脈襟裳十勝国立公園」が、環境省に承認を受ける予定となっています。現在の国定公園の区域が2倍以上となり、日高山脈を中心に、南北140キロにわたる手つかずの自然環境が数多く残る、面積約25万ヘクタールの国内最大の国立公園となります。この自然環境と大陸的な気候は、同時に、十勝の基幹産業である畜産、酪農、畑作にも大きく寄与すると同時に、本学の教育研究を進める上で、大きな強みとなっています。

日本の食料生産の中心地として、「生産から消費まで」一貫した環境が揃う十勝に位置する本学は、生命、食料、環境をテーマに、農学、畜産科学、獣医学に関する教育研究を推進する、我が国唯一の国立単科大学です。本学のミッションは、「知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、『食を支え、くらしを守る』人材の育成を通じて、地域及び国際社会に貢献すること。」です。

本学は、次世代をけん引する有為な人材を育成し、研究を通じた知の創造によって、社会課題の解決に寄与しており、教育、研究、業務運営、財務内容等に関して高く評価されています。しかし、社会が求めている「競争的環境の中で、活力に富み、個性豊かな魅力ある国立大学」の姿には未だ途上にあります。

そこで、2022年4月に発足した国立大学法人北海道国立大学機構は、帯広畜産大学、小樽商科大学、北見工業大学の3大学を経営統合し、農商工連携による教育研究連携により、北海道経済・産業の発展と国際社会の繁栄並びに、SDGsに示された持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。産学官金の強力な連携により「実学の知の拠点」を形成し、ステークホルダーの期待に応えて社会の発展に貢献することが使命です。

皆さんには学業の他に、クラブ活動やボランティア活動などにも積極的に参加していただきたいと思っています。十勝の開拓の歴史を知り、地域の多様な人々の考えや文化に触れることも大切です。そうした学業以外のアクティブな時間を送ることによって、多様性を受け入れる人間性が育まれ、大学生活は豊かになります。新しい学びあいのコミュニティは、大学の内外に存在しています。

新入生の皆さんが、それぞれの目標に向かって、志を高く持ち、悔いのない学生生活を過ごし、生命・食料・環境分野の専門知識、社会に通用する教養、社会情勢の変化や諸課題に対応可能な応用力やコミュニケーション能力を身につけ、人間的に大きく成長されることを祈念します。



教授
佐々木 基 樹

共同獣医学
課程

共同獣医学課程の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本学の共同獣医学課程を志望した理由は様々かと思いますが、これからの6年間の獣医学教育によって、皆さんは多くの幅広い知識を習得し、これまで抱えてきた、または入学後に新たに抱いた夢の実現へと向かって進んでいくことになることでしょう。この入学を機に、皆さんは自由に「学ぶ」ことができる恵まれた環境にあることを再認識して下さい。この6年間の大学生活において、獣医学はもとより多くの分野の知識を積極的に吸収することで、豊富な知識と人格を兼ね備えた獣医師として皆さんが社会に貢献していくことを期待しています。

帯広畜産大学と北海道大学は、2012年度から共同獣医学課程（VetNorth Japan: VNJ）を開設し、今年度の入学生が13期生になります。この共同獣医学課程では、統一されたカリキュラムにおいて教育がなされ、それぞれの大学がもつ強みを生かし、弱い部分を補完し合うことで質の高い獣医学教育を可能にしています。帯広畜産大学は、広大な十勝という酪農や食肉生産といった畜産業が盛んな地域に位置していることから、産業動物臨床や食品衛生といった分野が充実しています。一方、北海道大学では、伴侶動物臨床や人獣共通感染症といった分野に強みがあり、皆さんはこれらの分野を含む多くの獣医学関連科目を両大学の教員から学ぶことになります。

また本共同獣医学課程は、2019年の12月に欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）の獣医学教育の欧州基準認証を取得し、国際水準の獣医学教育を実践していることが認められております。今後、この獣医学教育の水準を維持・発展させていくことは本学の責務であり、VNJの獣医学教育改善には皆さんの

協力が必要不可欠となります。教職員とともに皆でVNJを発展させていきましょう。

共同獣医学課程では、2019年度から新カリキュラムがスタートしており、1年生の講義は教養科目を中心に行われ、専門科目としては帯広基礎獣医学演習や農畜産演習が実施されています。帯広基礎獣医学演習では、帯広で北大生と一緒に獣医学の概要に関して学び、また本演習は両大の学生が交流を深める切っ掛けにもなっています。また、農畜産演習では獣畜融合の観点から、と畜実習や搾乳実習などが行われ、「いのち」と「食」を考えるうえで貴重な体験となることでしょう。2年生からは獣医専門科目が本格的に始まり、基礎獣医学、病態獣医学、応用獣医学の講義・実習が体系的に実施されます。4年生になると臨床獣医学に関する科目が加わり、参加型臨床実習（ポリクリ）に参加するための基礎的な知識と臨床技術の習得がなされます。5、6年生では実際に獣医療現場に参加するポリクリが実施されますが、このポリクリを受講するにあたっては4年生の終わりに実施される共用試験に合格する必要があります。また、5、6年生では課題研究が行われ、研究のノウハウを学びます。さらに研究を続けたい学生さんには、本学大学院に獣医学専攻博士課程が設置されていますので、進学も選択肢の1つになるでしょう。

これから、獣医師になるためのハードな日々がはじまりますが、本来、自身がやりたいことであればそれをも楽しむこともできるでしょう。また、課外活動などにも積極的に参加してバランスのとれた健全な大学生活を送って下さい。この6年間の帯広での生活が、夢実現への第一歩になることを願っております。

課程・別科紹介



教授
耕 野 拓 一

畜産科学 課程

新入生の皆様、ようこそ帯広畜産大学へ。ご入学おめでとうございます。ご家族の皆様におかれましても、心よりお祝いを申し上げます。

日本の食料基地である北海道のなかでも、代表的な農業地帯である十勝平野に本学はあります。この恵まれた環境の中で、本学は日本で唯一の国立農学系の単科大学として、「食を支え、暮らしを守る」人材の育成を通じた、地域および国際社会に貢献することをミッションに掲げています。

世界的な食料情勢の変化による食料安全保障上のリスクの高まりや、気候変動等への対応など、今日、「食と農」に関わる問題は社会的にも大きく注目されています。グローバル化が進む現在、この「食と農」に関わる問題は複雑に絡み合い、広い視野を持った問題解決能力が今まで以上に求められています。

こうした社会的要請に応えられるよう、本学の畜産科学課程には、生命・食料・環境の多様な分野を網羅する、家畜生産科学、食品科学、環境生態学、農業経済学、植物生産科学、農業環境工学の6つのユニット（専門分野）があります。

1年次では、各ユニットが開講する「農畜産科学概論Ⅰ～Ⅵ」と、これに連動した「全学農畜産科学実習」を受講し、本学で農畜産学の専門分野を学ぶ上で必要となる基礎を習得します。また、こうした専門分野だけでなく、文学・哲学・法学・英語・ドイツ語などの人文社会学系科目も履修し、専門課程に進む準備を行います。1年次の後半には、希望調査を行い各ユニットへの所属が決まります。

2年次では、より専門性の高い科目を学び、3年次になると、各ユニットの研究室に所属し、さらに専門性の高い展開教育や実習、そして卒業研究の準備（専門書や論文の輪読、各研究室での実験への参

加など）や、就職活動なども始まります。そして4年次になると、卒業研究の総仕上げとなり、1月頃に各ユニット単位で卒業研究報告会が行われます。

本学では、こうした各専門分野単位で行われる講義等の他に、昨年度より、本格的に北海道国立大学機構の3大学（本学、小樽商科大学、北見工業大学）が連携し開講する文理融合型の副専攻型プログラムが始まりました。これは3大学の科目を複合的に組み合わせた「アントレプレナーシッププログラム」「スマート農畜産業プログラム」「スポーツ・健康プログラム」の3プログラムです。

過去数年、コロナ禍のため、講義や実習までも遠隔で行われ、学生間や学生教員間との交流も限られていました。現在は、その制約もなくなり、地域・国内はもとより、海外にも自由に行くことができます。本学には国際教育プログラムによる海外実習、ウイスコンシン大学(米国)と共同で行われるサマージョイントプログラム、国際協力機構（JICA）と連携し本学学生を青年海外協力隊員として、南米パラグアイに派遣する「帯広-JICA 協力隊連携事業」など、単科大学としては多くの海外プログラムがあります。これらの副専攻型プログラムや海外プログラムは、現在の複雑に絡み合う「食と農」をめぐる問題への対応力、広い視野からの問題解決能力を持ち、国際社会に貢献しうる力を備える上でも重要となります。

勉学の話ばかりをしましたが、クラブ活動やボランティア活動などにも自ら積極的に参加し、様々な人と交流し対話をすることで、さらに人間的魅力も増すと思います。実り豊かな充実した学生生活をお送りください。



准教授
秋 本 正 博



別科・酪農専修に進学された新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。別科主任を務めております秋本正博です。入学式が行われた4月上旬は、二十四節気で清明とよばれる季節にあたります。清明とは、文字通り生き物が清く生き生きと生活を始める時期を意味し、若葉が萌え、花が咲き、生命が明るく輝くまさにその時を指します。二十四節期は太陰太陽暦（旧暦）の季節暦で、いにしへの都の季節の移ろいをもとに定められたとされますが、気候変動の進む現在にあっては、むしろここ十勝の季節感にぴたりと合うようになってきました。みなさんも新たに大学生活をスタートするにあたり、喜びや楽しみ、新たな発見や時には不安なことも抱えながら、季節の名にふさわしく清く輝いていることと思います。

みなさんが進学した別科・酪農専修は、農業やその関連団体、企業に従事しながら日本の食を支えていく人材を育成する教育コースです。そのカリキュラムポリシーのひとつとして、「酪農に関わる様々な技能の“理論”と“実務”を教育する」ことが挙げられています。技能や技術は頭でなくて体で学べと言われることがあります。本学には100haを超える大規模な農場があり、100頭近い搾乳牛を飼育しています。別科では、これらの施設や家畜を十分に活用して多くの実習科目を通じた実践的な教育を行っています。まさに体を使った実務の学習です。しかしその一方で、いくら習得した技術でも、そこに理論的な裏付けがない場合、現場では何も役に立たないことが多いのも確かです。どのような学術的な根拠があってこの作業を行っているのか、なぜこの作業を行うと家畜が喜ぶのか、なぜ牧草がよく育つのか、なぜ経営が安定するのか、全ての作業に対

する「なぜ」を論理的に理解していないと、作業の効率が劣るだけではなく、不時に訪れるトラブルに対処できません。別科の教育課程では、実習科目に合わせて、様々な技能の“理論”を教える座学科目が開講されており、それぞれの分野の専門の教員が作業についての「なぜ」を大学教育水準でみなさんに教授してくれます。また、昨今の社会的な問題は日を追うごとに複雑化しており、ひとりの専門家だけでは解決できないことが多くなってきました。畜産に関する問題も同じです。牛のこと、餌のこと、作業機械のこと、経営のこと、どれかひとつの知識に明るければそれで万全だというような安易なものではありません。求められるのは、それら多角的な分野にわたる知識を合わせ問題解決に活かす能力です。別科の教育課程では、家畜の生理や繁殖、育種や飼育管理といったことから、飼料生産や農業機械、経営経済など、現在の酪農業に必要とされる様々な分野について学習し、幅広い問題に対応できる人材を育成します。農業を志すにあたり、大学で学ぶことを選んだみなさんですから、ぜひとも体と頭を使って、ひとつでも多くのことを学び取ってください。

清明の次には穀雨と呼ばれる節気が訪れます。霜があがり、春の雨を受けた作物が健やかに芽吹き出す時期という意味の季節です。北海道で多く栽培されるチモシーという牧草も春を待ち望んだかのように新葉を伸ばし始めました。みなさんの大学生活もここから芽吹き、やがて稔り多いものになるよう願っております。

在来生所感



共同獣医学課程 2年
久保田 龍騎

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから十勝のこの広大な土地で皆さんの新生活が始まります。大学生活ということで初めて親元から離れて生活していく方がほとんどかと思います。大学生活というこれまでとは異なる生活への期待に胸が膨らむ反面、慣れない環境に戸惑う気持ちもあるでしょう。

一人暮らしをしていくということは生活のほとんどを自分の自由にすることができるということです。これは一見楽しそうにも聞こえますが、言い換えると充実した生活を送れるかどうかは自分の決断次第ということになります。

特に初めの間は頼ることができる人がすぐ身近に

いるわけではありません。ですので、途中でダメになってしまう前に自分のキャパシティを適切に理解することが重要です。

大学に入学した後で皆さんは部活やサークル、アルバイトを始めていくことかと思います。中にはアルバイトをいくつも掛け持ちしたり部活やサークルを掛け持ちしたりする方もいるでしょう。そういった環境に囲まれると自分もバイトや部活を掛け持ちしなくてはならないように感じられますが、その必要はありません。皆さんは畜大で4年、獣医学科の場合は6年間この生活を続けていきます。無理に周りに合わせた生活を送って途中でダメになってしまうのは本末転倒です。「これは続けられないかも」と思ったらやめる決断をするのも重要です。

長期的な目線で自分にこの生活が続けられるのかをよく吟味し、自分のペースにあった生活リズムを築いてください。皆さんが抱いている将来の目標に畜大での学びの中で少しでも近づけることを祈っております。



畜産科学課程 2年
北野 志歩

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから始まる北海道ならではの生活や一人暮らし、新たな人間関係に不安や緊張を感じている人も多くいらっしゃるかと思います。ですがそんな不安も吹き飛ぶくらい、畜大での学生生活は楽しいことでたくさんです。

大学に入ると初めての経験が数多くあります。車の免許、バイト、時間割の組み立て…。分からないこともあると思いますが挑戦してみることが大事だと思います。助けが必要な時には力になってくれる先輩がたくさんいます。実際私も自動車学校やバイトでたくさん先輩に助けていただきました。

初めての経験といえば部活動やサークルも充実しています。畜大特有の部活も数多くあります。私自身入学するまで予想もしなかった部活に入っていますが素敵な先輩、同級生に囲まれて楽しい大学生活を送っています。また大学では様々な地域の出身の人と出会えます。是非たくさんの人と話してみてください。方言やそれぞれの地元のこと、他の人がしてきた経験などを知ることが出来てとても面白いです。

1年間北海道で過ごしていろいろなことにチャレンジしてきたつもりでしたが振り返ってみてまだまだやりたいことが山積みだなと感じています。だから私もチャレンジし続けます。興味を持つのに学年なんて関係ありません。大学は高校までとは比べ物にならないくらい自由の幅が広がります。そして同時に責任も加わります。その自由の中で、自分で考え行動していくことは自分の糧になります。

最後になりますが皆さんのこれからの大学生活が充実したものになることを祈っています。畜大で待っています！

在来生所感



畜産科学課程 2年
平松 薫怜

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。大変だった受験勉強とは一変し、とても楽しく新鮮な体験が皆さんを待っています。

私は入学直後の不安と期待の混じった感情を今でも鮮明に覚えています。皆さんも同じ感情でしょうか。初めての一人暮らしや、初めてのバイトを経験する方も多いことだと思います。皆さんの大学生活が良いものになることを心から願っています。

私が一年間この帯広畜産大学で過ごしてきて、皆さんに伝えたいことは、この一年は本当に信じられない程はやいものだったということです。地元から離れた土地で、新しい環境にも慣れながら、新しく

経験するものが多く充実した日々を送ることができました。

特に前期にある農畜産実習では、この大学でしか経験できないことを多く経験することができました。時には命や食の大切さを再確認することもありました。私は、この実習中この大学に来てよかったと何度も感じました。将来何をやりたいのか、将来何になりたいのか。自分と向き合う時間が増え、今後の人生について考えることも多くなりました。直接就職にかかわるであろうこの4年間を、勉強だけではなく、人との関わり方なども含め多くのことを吸収し、意味のあるものにしていきたいです。

皆さんが大学生になってやりたいことは何でしょうか。サークルに全力をそそぐ、自分で貯めたバイト代で旅行をする、カラオケで夜を明かす、大学生は何でもできます。だからこそ、目標をもって日々を過ごしていただきたいです。何となく日々を過ごして後悔した私からのアドバイスです。ぜひ今ある時間と、仲間を大切に、全力で大学生活を謳歌してください。



別科 2年
高井 大和

これから楽しみにしていた大学生活が始まりますね。

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。広大な大地の北海道、慣れない帯広のまち、90分授業や人間関係を1から作ること、一人暮らし、部活やサークルなど新しい環境で生活は不安がいっぱいだと思います。そんな方に少しでも力になればと思います。私が1年間別科で経験したことを話したいと思います。

私の所属する別科では構内にある畜産フィールド科学センターでの実習が半分を占めています。昨年度から新しい牛舎で実習が始まり新鮮な雰囲気を実習ができると思います。

実習ではただ牛の管理をするのではなく、正しい

搾乳方法や具合が悪い牛がいたときの対応など、実際に現場で役立つことを学ぶことができます。座学では作物や繁殖、農業機械などについて多くのことが学べます。専門的なこともあり大変でしたが、農業高校ではなかった自分でも友達や先輩また先生が優しく教えてくれて支えてくれました。

サークルや部活動も楽しいことばかりです。畜大らしい動物に関係するサークルもあり興味のあるサークルや部活がきっとあると思います。サークルや部活動に入れば新しい友達、カッコいい先輩方、新しい出会いがあるかもしれません！！

入学したはじめは誰もが緊張し不安になります。ですが気づいたら友達になって大学生活を楽しんでいるはずです。分からないことはぜひ先輩を頼ってください。

バイトのことでテストのことできっと力になります。

別科は2年間しかありません、挑戦を忘れず、人との出会いを大切に、もうこんな幸せな瞬間は二度とないだろうと思うぐらい楽しんでください。

令和5年度 学位記並びに修了証書授与式 開催



令和6年3月19日（火）本学講堂において、令和5年度学位記並びに修了証書授与式が行われました。式典の様子は本講義室に中継され、本学ホームページでも公開されました。

挙行に先立ち本学伝統の逍遥歌が流れ、長澤秀行学長から共同獣医学課程、畜産科学課程、別科、専攻の代表者に学位記並びに修了証書が授与されました。

また、本年度は各ユニットにおける学業成績優秀者の表彰も併せて行われ、賞状の授与と記念品の贈呈が行われました。

本年度は、学部 251 名、別科（酪農専修）9 名、大学院各専攻合わせて 60 名の合計 320 名が、本学での思い出を胸に巣立っていきました。



☆ 飲酒に関する注意 ☆

20歳未満の者が飲酒することは法律で禁止されています。大学生の集まりには、20歳未満の者とそれ以上の者が混在することが多くあり、そうした場においてお酒が提供されている場合もあると思います。

本学では在学生に対し、飲酒できない者には飲酒をさせないようにすることを強く指導していますが、万一、コンパ等で飲酒を勧められたり、強要されたりするようなことがあれば、はっきりと断ってください。

また、そうした事実があれば、学生支援課や学生相談室で対応いたしますので連絡をお願いします。

20歳未満の者が飲酒をしたり、飲酒を拒否するものに飲酒させたりした場合、退学や停学といった厳しい処分を行う場合があります。

20歳以上となった後でも、お酒を飲む際は適量を守ることが大切です。一気飲み等の危険な飲み方は、自身ですることはもちろん、他の人にさせてもいけません。周囲が危険な飲み方をしていることがあれば、それを止められるようになってください。

☆ 交通事故防止について ☆

本学では、通学での自動車等の利用については、一定の条件のもと許可していますが、通学に際してはなるべく徒歩、自転車等の利用をおすすめしています。

構内の駐車場を利用する場合は、本学が実施する「交通安全講習会」を受講の上、Webで「駐車場許可証」の交付を受ける必要があります。学内やその周辺において、無断駐車をした場合は厳しく対応しますので、十分ご注意ください。

一方で、帯広での普段の生活には自動車が欠かせないことも事実で、多くの学生が在学中に免許を取得し、自動車を所有しています。サークルの遠征や友人同士の旅行などでも、自動車で移動することが多くあります。

自動車の利用は大変便利な反面、交通事故に遭うリスクも生じます。大きな事故を起こしてしまうと、それだけで大切な学生時代を棒に振ってしまうことになりかねません。

飲酒運転や危険運転等、法律で禁止されている行為をした場合や、過失であっても人身事故を起こした場合は、民事・刑事・行政上の責任を問われるだけでなく、大学からも退学や停学といった処分が行われる場合があります。

自動車の利用におけるリスクを十分に理解し、常に安全運転を意識してください。

また、どんなに安全運転を心がけていても、事故に遭ってしまう可能性があります。自動車を購入する際には、自賠責保険だけでなく任意保険にも必ず加入するようにしてください。

☆ SNSの利用にあたって ☆

大学生になって行動範囲や社会とのつながりが増えることで、SNSにまつわるトラブルも多くなります。とくに自身で情報を発信する際には、下記のようなことに気を付けてください。

▶ **他人のプライバシーを侵害していないか。**

勝手に他人の情報や写真を載せてしまうと、プライバシー侵害となる恐れがあります。

▶ **自身のプライバシーの設定は適切か。**

例えば「鍵アカ」であっても、思わぬところから拡散する場合があります。

▶ **迷惑行為や内部情報などを発信してしまっていないか。**

例えばアルバイト先で知った情報の中には、外部へ提供してはいけない情報があるかも知れません。

▶ **誹謗中傷や他人を傷つける行為を行っていないか。**

SNSは一見すると匿名であるように見えますが、開示請求されれば誰が発信したかわかってしまいます。大勢の前で他人に面と向かって言えないことは、SNSでも発信してはいけません。

☆ 消費者トラブルに巻き込まれないために ☆

成年年齢が18歳となったことにより、大学生は親などに相談することなく、単独で契約等を行うことができるようになりました。自分で決められる反面、責任も自身が負うこととなりますが、知識や経験が浅い若年層を狙って悪質な取引が行われることや、不当な契約を迫る業者も残念ながら多数存在し、安易に契約してしまうことで、トラブルに巻き込まれてしまうことがあります。

国民生活センターには「エステティックサービス」「医療サービス」などの美容に関する相談や「内職・副業その他」（オンラインカジノ、副業サイトなど）、「ファンド型投資商品」（暗号資産（仮想通貨）への投資など）等の儲け話に関するトラブルが若年層から多く寄せられており、ネットやSNSを経由したサービスでのトラブルも多数発生しています。

まずは「簡単に儲かる」「他より異常に安い」といったことを疑ってみることが重要です。「判断を急かす」「考える暇を与えない」というのも、詐欺や不当な取引の常套手段です。1日おいてじっくり考える、親や友達に相談してから決めるといったことで、トラブルを未然に防ぐことができます。

また、トラブルに巻き込まれてしまった場合は、すぐに相談することが大切です。ひとりで悩まずに、学生支援課や学生相談室にご相談ください。なお、公的な外部機関としては消費生活センターがあり、「消費者ホットライン」188番に電話で相談もできます。



学生支援課 学生生活支援係：0155-49-5310 sien@obihiro.ac.jp

学生相談室：0155-49-5638 soudan@obihiro.ac.jp